

参考資料

- ・矢口芳生『フラワービジネス』
- ・農林統計協会、一九九二年
- ・原幹博「花き生産における流

通対応」前掲書『課題別研究資料―花きの流通・消費をめぐる諸問題』



## 各種研修会等への講師派遣

北海道地域農業研究所では、各種研修会への講師派遣、研究会での報告・話題提供など次のとおり対応している。  
(平成五年九月～六年二月)

### 農協生活文化活動研修

主催 北海道農協学校  
とき 平成五年九月一日  
テーマ 生活総合センター構想の調査結果について  
講演者 田淵直子(当研究所・嘱託研究員)

### 平成五年度・道立農業試験場経営研究会

主催 道立天北農業試験場  
とき 平成五年九月二十日～二十一日  
テーマ 家族経営酪農の適正規模  
報告者 吉野宣彦(当研究所・専任研究員)

### ハンガリー特設「農産物市場経済」コース研修

主催 国際協力事業団(JICA)・帯広市が道内研修を受託  
とき 平成五年十月十八日  
テーマ 野菜の生産と市場動向  
分担講義 富田義昭(当研究所・常務理事)

### 農協役員研修会

主催 中春別農協  
とき 平成五年十月二十五日  
テーマ 北海道肉牛・牛肉の流通現状と再編方向について  
講演者 佐々木悟(九州大学経済学部助教授)

### 農業経営分析診断指導研修会

主催 北海道農協学校  
とき 平成五年十月二十六日  
テーマ 農業経営分析診断指導について  
分担講義 石田孟史(当研究所・事務局長)

### 第86回北海道農業経済学会 例会

主催 北海道農業経済学会  
とき 平成五年十一月十三日(十四日)  
個別報告 農村における情報システム  
その① テムの構築と課題(栗山町農業情報システムを事例として)  
報告者 中村正士(当研究所・専任研究員)

個別報告 北海道における農協組織・事業整備過程に関する研究  
その② (昭和30年代末「系統体質改善運動」)  
報告者 田淵直子(当研究所・嘱託研究員)

### 平成五年度・異分野交流会

主催 北海道商工労働観光部  
とき 平成五年十二月七日  
テーマ 農産物の付加価値向上への取り組みと食品加工について

## DATA FILE

### 関連事項 / DATA

- 北海道大学農学部  
〒060 札幌市北区北9条西9丁目  
☎011 (716) 2111
- 北海道大学教育学部  
〒060 札幌市北区北11条西7丁目  
☎011 (716) 2111
- 北海道教育大学岩見沢校  
〒068 岩見沢市緑が丘2丁目34番地  
☎0126 (22) 1470
- 東京農工大学  
〒183 東京都府中市幸町3-5-8  
☎0423 (64) 3311  
(株) やまめの里  
〒882-12 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡4615番地  
☎0982 (83) 2320
- せゝらぎ合唱団  
〒089-01 上川郡清水町本通9丁目  
☎01566 (2) 2842
- 田子町役場  
〒039-02 青森県三戸郡田子町大字田子字天神堂平81  
☎0179 (32) 3111
- 白糠町教育委員会  
〒088-03 白糠郡白糠町東3条南1丁目1番地  
☎01547 (2) 2287
- 中国農業試験場  
〒721 広島県福山市西深津町6丁目12番地1号  
☎0849 (23) 4100
- 神田日勝記念館  
〒081-02 鹿追町東町3丁目2  
☎01566 (6) 1555

話題提供者 富田義昭(当研究所・

常務理事)

### 第五回経営シンポジウム

主催 北海道大学農学部  
とき 平成五年十二月十日  
テーマ 公共牧場の公共性の再検討

報告者 井上誠司(当研究所・研究員)

主 催 さっぽろ都市近郊農業を考える会  
とき 平成五年十二月十五日  
テーマ 最近の花き生産・流通の動向について

話題提供者 富田義昭(当研究所・常務理事)

### さっぽろ都市近郊農業を考える会・例会

### 栗山町冬期農業講座

主 催 栗山町  
とき 平成六年二月二日  
テーマ 農産物のブランド化  
講演者 杉山勇(JT・日本たばこチーフコンサルタント)

平成五年度・地区別農業委員  
研修会

主 催 後志支庁

とき 平成六年二月七日  
テーマ 農地問題・担い手不足と地域再編

講演者 谷本一志(北海道東海大 学・助教)

### 編集担当者の交替

本誌創刊号以来、会報の編集に携わってきた中村研究員が、二月の人事異動でホクレンに戻りました。三年有余に亘って特異なキャラクターで「特集号」を組み、読者を魅了してきました。長い間の苦勞に感謝します。替わって本誌の編集を土屋、河村両研究員が担当することになりました。食糧の自由化など新たな課題を巡って、都市と農村を結ぶことを使命としている本誌が、消費者と生産者に確かな情報を提供する重要性が、いよいよ強まってきております。両君の精進と、奮闘を期待します。

(編集人・幸 健一郎)